

昭和十五年遞信省告示第二百三十一號中改正ノ件

(昭和十八年八月二十八日  
遞信省告示第九百七十二號)

(連三)

八五

昭和十五年二月遞信省告示第二百三十一號中別表ヲ左ノ通改正シ昭和十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

電力消費規正地域區分表

- 北海道地方 東北部 根室國、北見國、釧路國、十勝國、天鹽國、石狩國
- 北海道地方 西南部 日高國、膽振國、後志國、渡島國
- 東北地方 北部 青森縣、岩手縣、秋田縣、山形縣
- 東北地方 南部 宮城縣、福島縣、新潟縣
- 關東地方 茨城縣、栃木縣、群馬縣、埼玉縣、千葉縣、東京都、神奈川縣、山梨縣、靜岡縣(熱海市、三島市、沼津市、富士宮市、田方郡、賀茂郡、駿東郡、富士郡ニ限ル)
- 中部地方 長野縣、岐阜縣(近畿地方ニ屬スルモノヲ除ク)、愛知縣、三重縣(近畿地方ニ屬スルモノヲ除ク)、富山縣、石川縣、福井縣(近畿地方ニ屬スルモノヲ除ク)、靜岡縣(關東地方ニ屬スルモノヲ除ク)
- 近畿地方 滋賀縣、京都府、大阪府、和歌山縣、奈良縣、兵庫縣、三重縣(南牟婁郡(新鹿村、荒坂村、南輪內村、北輪內村、泊村ヲ除ク)、岐阜縣(不破郡今須村ニ限ル)、福井縣(大飯郡、遠敷郡、三方郡ニ限ル)
- 中國地方 東部 岡山縣、廣島縣、島根縣、鳥取縣、香川縣(小豆郡、愛媛縣越智郡(弓削村、生名村、岩城村、東伯方村、西伯方村、大山村、宮窪村、津會村、龜山村、渦浦村、瀬戶崎村、盛口村、宮浦村、鏡村、岡山村、關前村、)

第八條關係

四六ノ四ノ三

中國地方西部 山口縣  
四國地方 香川縣(小豆郡ヲ除ク)、愛媛縣(中國地方東部ニ屬スルモノヲ除ク)、徳島縣、高知縣  
九州地方東部 福岡縣、大分縣、宮崎縣  
九州地方西部 佐賀縣、長崎縣、熊本縣、鹿兒島縣

四六ノ四ノ四

(編三) 八六

1641

電力調整令第三條第一項ノ規定ニ依ル電力ノ消費ノ制限ニ關シ左ノ通定メ昭和十五年二月十日ヨリ之ヲ施行ス  
 (昭和十五年二月三日 逓信省告示第二百三十二號)

- 電力ハ別表ニ定ムル限度ヲ超エテ之ヲ消費スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 逓信大臣又ハ逓信局長ニ於テ當該限度ヲ緩和シ又ハ解除シタルトキ
  - 二 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ保安上其ノ他緊急已ムヲ得ザル必要ニ因リ當該限度ヲ臨時變更又ハ解除シタルトキ
  - 三 他ヨリノ受電ニ依ラザル電力ヲ消費スルモノナルトキ

(別表)

甲 第四種需用以外ノ需用(乙ニ掲グルモノ及電燈用ヲ除ク)

地域	限度
關東地方南部	百分之八十五
中部地方	百分之六十五
近畿地方	百分之五十五
中國地方東部	百分之五十五
中國地方中部及西部	百分之五十五
四國地方	百分之七十五

第八條關係

四六ノ五

乙

(ロ)(イ) 第一種需用  
第二種需用中左ニ掲グルモノノ需用

金剛鐵業  
 石油鐵業  
 石炭鐵業  
 非鐵金屬製鐵業(アルミニウム及マグネシウムヲ除ク)  
 造船(全部品及附屬品)業  
 車輛(全部品及附屬品)製造業  
 鐵道及軌道用車輛  
 自動車(除小型自動車)  
 工業藥品製造業  
 ソルダ灰  
 苛性ソーダ  
 工業鹽製造業  
 石油精製業  
 石炭精製業  
 人造石油製造業  
 代用液體燃料製造業  
 パルプ製造業

備考

- 一 用途ハ昭和十四年十二月遞信省告示第三千八百十號ニ依ル
- 二 地域ハ昭和十五年二月遞信省告示第二百三十一號ニ依ル
- 三 限度ハ最大電力ニ付テハ法令ニ依リ認容セラレタル契約最大電力、月使用電力量ニ付テハ前年同月ノ使用電力量、前年同月ノ使用電力量ナキモノ又ハ特別ノ事情アルモノニ付テハ遞信局長ノ指定シタル電力量ニ依ル
- 四 本告示施行ノ月又ハ限度ニ變更アリタル月ニ於ケル使用電力量ノ算定ハ日割計算ニ依ル

四國地方	中東部及西部	近畿地方	中部地方	關東地方	東北地方
百	百	百	百	百	百
分	分	分	分	分	分
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
七	九	五	五	六	九
十	十	十	十	十	十
五	五	五	五	五	五

四六ノ六

電力調整令第三條第一項ノ規定ニ依ル電燈用電力ノ消費ノ制限ニ關シ左ノ通定  
 メ昭和十五年二月十日ヨリ之ヲ施行ス  
 (昭和十五年二月三日  
 遞信省告示第二百三十三號)

カハ左ニ掲グル限度ヲ超エテ電燈ノ用ニ之ヲ消費スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ遞信局長  
 ニ於テ當該限度ヲ緩和シ若ハ解除シタル場合又ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ保安  
 上其ノ他緊急已ムヲ得ザル必要ニ因リ當該限度ヲ臨時變更若ハ解除シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 定額制ニ依ル電力ノ供給ヲ受クル場合

取附總ワット數又ハ取附總燭數

二百ワットヲ超エ四百ワット以下ノモノ又ハ  
 百六十燭ヲ超エ三百二十燭以下ノモノ

限  
 當該總ワット數又ハ總燭數ノ百分ノ九十(二百ワット  
 又ハ百六十燭未滿ト爲ルモノニ付テハ二百ワット又ハ  
 百六十燭)

四百ワット又ハ三百二十燭ヲ超ユルモノ

當該總ワット數又ハ總燭數ノ百分ノ八十(三百六十ワ  
 ット又ハ二百八十八燭未滿ト爲ルモノニ付テハ三百六  
 十ワット又ハ二百八十八燭)

二 從量制ニ依ル電力ノ供給ヲ受クル場合

前年同月ノ使用電力量  
 十五キロワット時ヲ超エ三十キロワット時以  
 下ノモノ

限  
 當該使用電力量ノ百分ノ九十(十五キロワット時未滿  
 ト爲ルモノニ付テハ十五キロワット時)

第八條關係

四六ノ七

三十キロワット時ヲ超エ五十キロワット時以下ノモノ

當該使用電力量ノ百分ノ八十(二十七キロワット時未滿ト爲ルモノニ付テハ二十七キロワット時)

五十キロワット時ヲ超ユルモノ

當該使用電力量ノ百分ノ七十(四十キロワット時未滿ト爲ルモノニ付テハ四十キロワット時)

前項第一號ノ場合ニ於テワット制及燭制ヲ併用スルモノニ付テハ一燭ヲ一・二五ワットトシテ計算ス

第一項第二號ノ場合ニ於テ前年同月ノ使用電力量ヲキモノ又ハ前年同月以後ニ於テ契約燈數若ハ契約容量ニ變更アリタルモノニ付テハ同種同程度ノ需用ノ使用電力量ヲ參酌ノ上電氣供給事業者ニ於テ指定シタル電力量ヲ以テ前年同月ノ使用電力量ト看做ス

昭和十五年二月遞信省告示第二百三十二號中左ノ通改正シ昭和十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和十五年二月十七日遞信省告示第三百八十八號)

別表甲ノ部中地域及限度ノ項ヲ左ノ如ク改ム

- 東北地方南部 百分ノ八十五
- 關東地方 百分ノ七十
- 中部地方 百分ノ七十
- 近畿地方 百分ノ七十
- 中國地方東部、中部及西部 百分ノ八十
- 四國地方 百分ノ七十五

別表乙ノ部中地域及限度ノ項ヲ左ノ如ク改ム

- 東北地方南部 百分ノ九十五
- 關東地方 百分ノ七十五
- 中部地方 百分ノ七十五
- 近畿地方 百分ノ七十五
- 中國地方東部、中部及西部 百分ノ九十
- 四國地方 百分ノ八十五

第八條關係

四六ノ九

電力調整令第八條ノ規定ニ依リ昭和十四年十二月遞信省告示第三千六百八十五號ニ依リ消費ヲ禁止セラレ若ハ同第三千六百八十六號ニ依リ供給ヲ禁止セラレ又ハ昭和十五年二月遞信省告示第二百三十二號若ハ同第二百三十三號ニ依リ消費ヲ制限セラレタル電力ニ對スル電氣料金其ノ他供給條件ニ關シ左ノ通定メ本日ヨリ之ヲ施行ス

(昭和十五年二月十日  
遞信省告示第三百二十號)

昭和十四年<sup>十二月</sup>遞信省告示第三千六百八十五號ニ依リ消費ヲ禁止セラレ又ハ同第三千六百八十六號ニ依リ供給ヲ禁止セラレタル電力ニ對シテハ電氣料金ハ之ヲ徵スルコトヲ得ズ  
昭和十五年<sup>二月</sup>遞信省告示第二百三十二號又ハ同第二百三十三號ニ依リ消費ヲ制限セラレタル電力ニ對スル電氣料金ノ算定ハ左ノ各號ニ依ル

一 最大電力(電燈用電力ニ在リテハワット數又ハ燭數)ニ付制限アリタルモノハ電氣供給規程ニ依リ供給セラルルモノニ付テハ電氣供給規程中當該制限後ノ最大電力ニ相當スル電力ニ適用スベキ電氣料金ニ依リ料金ヲ算定シ電氣供給規程ニ依ラズシテ供給セラルルモノニ付テハ當該制限後ノ最大電力ノ契約最大電力ニ對スル割合ニ應ジ定額料金制ニ依リ供給セラルルモノニ在リ

第八條關係

四六ノ一一

1647



テハ其ノ定額料金ヲ低減シ従量料金制ニ依リ供給セラルルモノニ在リテハ其ノ最低料金、準備料金及料率ノ段階ヲ低減スルモノトス

實際使用最大電力ガ當該制限後ノ最大電力ヲ超エタルトキハ最大電力ノ超過ニ付電氣供給規程又ハ契約ニ規定スル所ニ從ヒ料金ヲ算定スルモノトス

二 使用電力量ニ付制限アリタルモノハ當該制限後ノ使用シ得ベキ電力量ガ電氣供給規程又ハ契約ニ規定スル最低責任使用量ニ達セザルモノニ付テハ當該制限ノ割合ニ應ジ當該最低責任使用量ヲ低減シ料金ヲ算定スルモノトス

三 使用電力量ニ付制限アリタル場合ニ於テ實際使用電力量ガ當該制限後ノ使用シ得ベキ電力量ヲ超エタルトキハ昭和十五年二月三十三號ニ依リ消費ヲ制限セラレタルモノヲ除クノ外電氣供給規程又ハ契約ニ規程スル料率ノ二倍ノ料率ニ依リ當該超過電力量ノ料金ヲ算定スルモノトス但シ制限後ノ使用シ得ベキ電力量ガ前號ノ規定ニ依リ低減セラレタル最低責任使用量ニ達セザルモノニ付テハ其ノ低減セラレタル最低責任使用量ニ相當スル電力量ニ達スル迄ハ電氣供給規程又ハ契約ニ規定スル料率ヲ以テ當該超過電力量ノ料金ヲ算定スルモノトス

四 一定ノ日又ハ時間ニ於ケル電力使用ノ休止ノ方法ニ依リ電力ノ消費ノ制限アリタルモノハ定

額料金制ニ依リ供給セラルルモノニ付テハ其ノ休止日數又ハ休止時間數ニ應ジ其ノ定額料金ヲ  
低減スルモノトス

五 第一號ニ規定スル制限方法及第二號又ハ前號ニ規定スル制限方法ガ同時ニ適用セラルルモノ  
ニ付テハ先ヅ第一號ノ規定ニ依リ料金ヲ算定シタル後第二號及第三號ノ規定ニ依リ料金ヲ算定  
シ又ハ前號ノ規定ニ依リ料金ヲ算定スルモノトス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ニ依リ算定セラ  
レタル料金ハ第二號乃至前號ノ規定ニ依ル料金ノ算定ニ當リテハ第六號ノ規定ニ依ル場合ヲ除  
クノ外之ヲ電氣供給規程又ハ契約ノ料金ト看做ス

六 第一號及第二號ニ規定スル制限方法ガ同時ニ適用セラルルモノニシテ當該制限後ノ使用シ得  
ベキ電力量ガ第一號ニ依リ低減セラレタル最低料金ニ相當スル電力量ニ達セザルモノニ付テハ  
第一號ノ規定ニ依リ低減セラレタル最低料金ニ相當スル電力量ト第二號ノ規定ニ依リ電氣供給  
規程又ハ契約ニ規定スル最低責任使用量ヲ低減シタル電力量トヲ比較シ兩者ノ中低キモノヲ以  
テ其ノ最低責任使用量トシテ料金ヲ算定スルモノトス

昭和十五年遞信省告示第三百二十號中改正ノ件

(昭和十六年十一月二十日  
遞信省告示第二千三百五號)

(四三、四四)

昭和十五年<sup>二</sup>遞信省告示第三百二十號中左ノ通改正シ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

「昭和十五年<sup>二</sup>遞信省告示第二千三十三號若ハ同年<sup>十</sup>遞信省告示第二千九百十八號」及「昭和十五年<sup>二</sup>遞信省告示第二千三十三號又ハ同年<sup>十</sup>遞信省告示第二千九百十八號」ヲ「昭和十六年<sup>十一</sup>遞信省告示第二千三百四號」ニ改ム

第二項第一號中「電燈用電力ニ在リテハワット數又ハ獨數」ヲ削ル

第二項第三號ヲ削リ同項第四號ヲ第三號トス

第二項第五號ヲ第四號トシ同項同號中「第二號及第三號ノ規定ニ依リ料金ヲ算定シ又ハ」ヲ「第二號又ハ」ニ、「第二號乃至前號」ヲ「第二號又ハ前號」ニ、「第六號ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外」ヲ「第五號ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外」ニ改ム

第二項第六號ヲ第五號トス

第八條關係

四六ノ一五

(道三ノ三)

昭和十五年逓信省告示第三百二十號中改正ノ件(昭和十七年十月一日逓信省告示第三百三十八號)

昭和十五年二月逓信省告示第三百二十號(電力調整令第八條ノ規定ニ依ル電氣料金其ノ他供給條件ニ關スル件)中左ノ道改正シ本日ヨリ之ヲ施行ス

「昭和十四年十二月逓信省告示第三百六十八號ニ依リ消費ヲ禁止セラレ若ハ同第三百六十八號ニ依リ供給ヲ禁止セラレ又ハ昭和十六年十一月逓信省告示第二千三百四號ニ依リ」ヲ「同第三百六十八號ニ依リ消費ヲ禁止セラレ若ハ同第三百六十八號ニ依リ」ニ、「昭和十四年十二月逓信省告示第三百六十八號ニ依リ消費ヲ禁止セラレ又ハ同第三百六十八號ニ依リ」ヲ「電力調整令第三條第一項ノ規定ニ基キ消費ヲ禁止セラレ又ハ同令第四條第一項ノ規定ニ基キ」ニ、「昭和十六年十一月逓信省告示第二千三百四號ニ依リ消費ヲ制限セラレタル電力」ヲ「電力調整令第三條第一項ノ規定ニ基キ消費ヲ制限セラレタル電力(電燈用電力ヲ除ク)」ニ改ム

第八條關係

四六ノ一七

1651

米穀搗精等制限令(昭和十四年十一月二十五日)  
勅令第七百八十九號

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ南洋群島ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同  
ジ)第八條ノ規定ニ基ク米穀ノ搗精若ハ酒類及麥酒ノ製造ノ制限又ハ同法第九條ノ規定ニ基ク小  
麥其ノ他ノ米穀以外ノ穀物及穀粉ノ輸出ノ制限ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

前項ニ於テ酒類及麥酒トハ内地ニ在リテハ酒造税法ノ適用ヲ受クル酒類及麥酒税法ノ適用ヲ受ク  
ル麥酒、朝鮮ニ在リテハ酒稅令ノ適用ヲ受クル酒類ニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノ、樺太ニ在リ  
テハ樺太廳長官ノ指定スルモノ、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ指定スルモノヲ謂フ

第二條 業務ニ關シ米穀ノ搗精ヲ爲ス者ハ玄米ノ重量ニ對スル搗上リ米ノ重量ノ割合ガ農林省令ノ  
定ムル割合ヲ下ラザル限度ニ於テ米穀ノ搗精ヲ爲スベシ但シ農林省令ノ定ムル特別ノ事由ニ因リ  
地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 酒類又ハ麥酒ヲ製造スル者ハ其ノ製造石數ニ關シ大藏省令ノ定ムル限度ヲ超エテ酒類又ハ  
麥酒ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ大藏省令ノ定ムル特別ノ事由ニ因リ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場  
合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條關係

大藏大臣ハ大藏省令ノ定ムル所ニ依リ前項但誓ノ規定ニ依ル事務ノ一部ヲ稅務監督局長又ハ稅務署長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第四條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ小麥其ノ他ノ米穀以外ノ穀物及穀粉ノ輸出ヲ制限スルコトヲ得

第五條 大藏大臣、農林大臣、地方長官、稅務監督局長又ハ稅務署長必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ第二條乃至前條ノ規定ニ依ル制限ニ關シ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第六條 本令中大藏大臣又ハ農林大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ稅務監督局長又ハ稅務署長トアルハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ニ在リ

テハ南洋廳支廳長トス

本令中大藏省令又ハ農林省令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在  
リテハ廳令トス

酒類及麥酒ノ製造ノ制限ニ關スル規定ハ臺灣ニハ之ヲ適用セズ

附 則

本令ハ内地ニ在リテハ昭和十四年十二月一日ヨリ、朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十  
四年十二月十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ酒類及麥酒ノ製造ノ制限ニ關スル規定ノ施行期日ハ別ニ之ヲ  
定ム

米穀搗精制限規則 (昭和十四年十一月二十五日)  
(農林省令第六十四號)

第一條 米穀搗精等制限令第二條ノ割合ハ九割四分トス

第二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ地方長官ハ米穀搗精等制限令第二條但書ノ許可ヲ爲スコトヲ得

- 一 酒類又ハ麥酒ノ製造ノ用ニ供スル爲米穀ノ搗精ヲ爲ストキ
- 二 藥劑ノ製造ノ用ニ供スル爲米穀ノ搗精ヲ爲ストキ
- 三 試験ノ用ニ供スル爲米穀ノ搗精ヲ爲ストキ
- 四 其ノ他農林大臣ノ別ニ定ムル事由アルトキ

第三條 米穀搗精等制限令第二條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ搗精設備ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ提出スベシ

- 一 搗精セントスル米穀ノ數量
- 二 玄米ノ重量ニ對スル搗上リ米ノ重量ノ割合
- 三 搗精シタル米穀ノ用途其ノ他許可ヲ受ケントスル事由
- 四 搗精ノ時期及場所

第八條關係



地方長官ハ前項ノ書類ノ外必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第四條 米穀搗精等制限令第二條但書ノ許可ヲ受ケタル者前條第一項各號ニ掲グル事項ヲ變更セシ

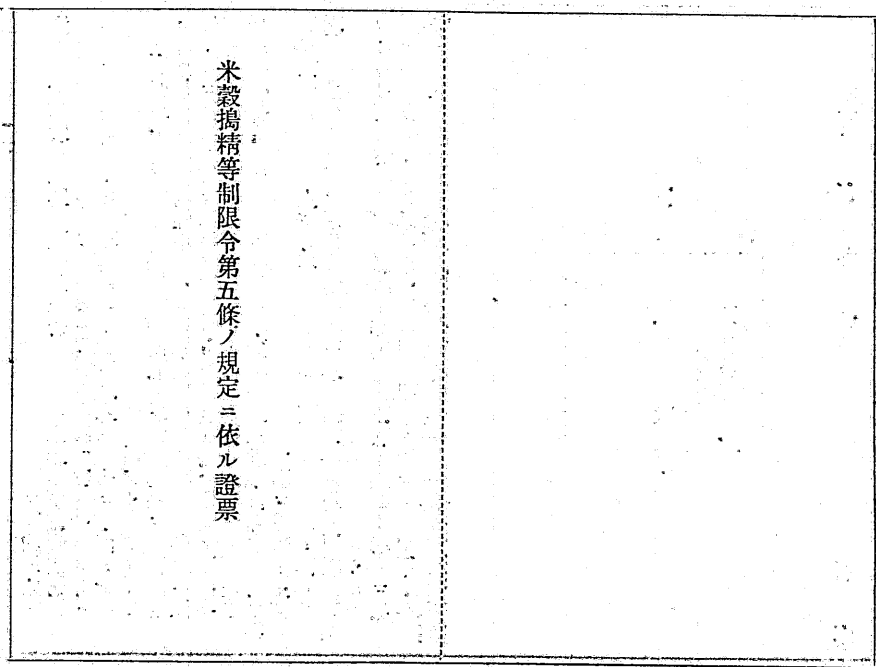
トスルトキハ當該地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第五條 米穀搗精等制限令第五條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附則

本令ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記様式(用紙ノ大サハ日本標準規格A7ト)  
シ中央點線ノ所ヨリニツ折ト爲ス  
(表面)



米穀搗精等制限令第五條ノ規定ニ依ル證票

第八條關係

五三

1657

1898

納印

(裏面)

第 號 昭和 年 月 日交付

1658

官 職 氏 名  
農林省又ハ  
廳府縣印

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

米穀搗精等制限令第五條 大藏大臣、農林大臣、地方長官、稅務監督局長又ハ稅務署長必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ第二條乃至前條ノ規定ニ依ル制限ニ關シ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

米穀搗精制限規則第五條 米穀搗精等制限令第五條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

米穀摺精制限規則中改正ノ件(昭和十七年十二月二十八日  
農林省令第九十一號)

(道三ノ三)

第一條中「九割四分」ヲ「九割五分」ニ改ム

附則

本令ハ昭和十八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條關係

五四ノ一

1659

米穀搗精制限規則第二條第四號ノ事由左ノ通定△

(昭和十四年十二月一日  
農林省告示第四百二十八號)

- 一 醫療上必要ナル米穀ノ搗精ヲ爲ストキ
- 二 船舶安全法施行規則ニ規定スル平水區域、沿海區域及近海區域第一區以外ノ區域ヲ航行スル船舶又ハ漁船特殊規則ニ規定スル第二種若ハ第三種ノ從業制限ヲ有スル漁船ノ船用品タル米穀ノ搗精ヲ爲ストキ
- 三 前號ニ掲グル船舶ニ依リ船舶安全法施行規則ニ規定スル平水區域、沿海區域及近海區域第一區以外ノ區域ニ輸送スル米穀ノ搗精ヲ爲ストキ

第八條關係

五五

1660

小麥等輸出許可規則 (昭和十四年十一月三十日)  
(農林省令第六十五號)

第一條 小麥其ノ他ノ米穀以外ノ穀物又ハ穀粉ニシテ農林大臣ノ指定スルモノハ船用品、郵便物又ハ百斤ヲ超エザルモノヲ除クノ外農林大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル輸出許可申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

一 品名

二 數量及價額

三 仕向地及仕向港

四 輸出港

五 輸出時期

農林大臣ハ前項ノ書類ノ外必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者前條第一項第二號乃至第五號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルト

キハ農林大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ物品ノ輸出ヲ爲ス場合ニ於テ農林大臣ノ交付スル輸出許可書ヲ輸出ノ手續ヲ爲スベキ税關ニ提出スベシ

第八條關係

五七

第五條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者輸出ヲ爲シタルトキハ其ノ都度遲滞ナク左ニ掲グル事項ヲ農林

大臣ニ報告スベシ

一 輸出ノ許可ヲ受ケタル物品ノ品名、數量及許可ノ年月日

二 輸出數量及價額

三 仕向地及仕向港

四 輸出港

五 輸出ノ年月日

第六條 農林大臣ノ指定シタル物品ニ付第一條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ農林大臣ノ指定スル團體

ヲ經由シテ輸出許可申請書ヲ提出スベシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 米穀摺摺等制限令第五條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ昭和十四年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス

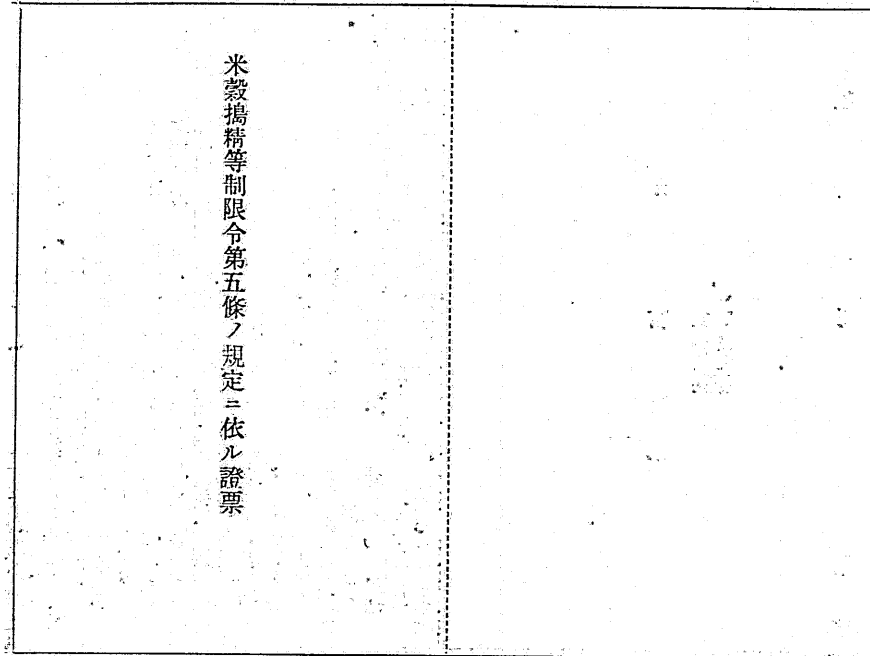
本令施行前昭和十四年商工省令第五十三號第一條ノ規定ニ依リ輸出ノ承認ヲ受ケタル物品ニ付テハ

本令施行後十五日以内ニ第二條第一項ニ掲グル事項ヲ農林大臣ニ届出デタル場合ニ限り第一條ノ規

定ニ拘ラズ之ヲ輸出スルコトヲ得

第五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ輸出ヲ爲シタル者ニ之ヲ準用ス

別記様式<sup>別記様式</sup>（用紙ノ大サハ日本標準規格A7ト）  
（表面）  
（中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）



米穀搗精等制限令第五條ノ規定ニ依ル證票

第八條關係

第九

1663



1100

100

(裏面)

第 號

昭和 年 月 日交付

1664

農林省又ハ  
廳府縣印

官 職 氏 名

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

米穀搗精等制限令第五條 大藏大臣、農林大臣、地方長官、稅務監督局長又ハ稅務署長必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ第二條乃至前條ノ規定ニ依ル制限ニ關シ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

小麥等輸出許可規則第七條 米穀搗精等制限令第五條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

小麥等輸出許可規則第一條及第六條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

(昭和十四年十二月二十七日  
農林省告示第四百五十六號)

昭和十四年十一月農林省告示第四百二十六號ハ之ヲ廢止ス

第一條ノ農林大臣ノ指定スル物品

小麥 小麥粉

第六條ノ農林大臣ノ指定シタル物品

小麥粉

第六條ノ農林大臣ノ指定スル團體

日本小麥粉輸出組合

第八條關係

六一

1665

小麦 小麦粉

小麦等輸出許可規則第一條ノ規定ニ依リ物品指定(昭和十四年十一月三十日  
農林省告示第四百二十六號)

第八條關係

三三

1666

陸運統制令（昭和十五年二月一日）  
勅令第三十七號

第一條 國家總動員法第八條ノ規定ニ基ク車輛其ノ他ノ陸上ニ於ケル輸送用物資ノ使用及同法第七條ノ規定ニ基ク陸上運送事業者間ニ於ケル統制協定ニ關シ必要ナル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 鐵道大臣總動員物資ノ輸送ヲ確保スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上運送事業者ニ對シ貨物運送ノ引受若ハ順序又ハ運送スベキ貨物ノ受取若ハ運送シタル貨物ノ引渡ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三條 鐵道大臣總動員物資ノ輸送ヲ確保スル爲必要アリト認ムルトキハ貨物ノ引渡ヲ請求シ又ハ貨物ノ引取ニ應ジタル荷受人其ノ他貨物ノ引取ヲ爲スベキ者ニシテ引取ヲ爲スベキ期間内ニ引取ヲ爲サザルモノニ對シ期日又ハ期間、數量等ヲ指定シ貨物ノ引取ヲ命ズルコトヲ得

第四條 鐵道大臣ハ相當期間繼續シテ運送スル必要アル總動員物資ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノニ付命令ノ定ムル出貨者ニ對シ當該貨物ノ託送ニ關シ必要ナル事項ノ申告ヲ爲サシムルコトヲ得  
鐵道大臣前項ノ出貨者ニ對シ同項ノ申告ニ基キ託送ノ期日又ハ期間、數量等ヲ指定シタルトキハ

第八條關係

六五

1667

出貨者ハ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外其ノ指定ニ從ヒ貨物ノ託送ヲ爲シ又ハ爲サシムベシ

第五條 鐵道大臣總動員物資ノ輸送ヲ確保スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上運送事業者ニ對シ設備ノ共用、連絡運輸、直通運輸、運送賃其ノ他ノ事項ニ關スル統制協定ノ設定、變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

第六條 鐵道大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ貨物運送ノ引受者ハ順序、貨物ノ受取、引渡、託送若ハ引取又ハ前條ノ統制協定ニ關シ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ店舗、事業場、事務所、倉庫、貨物置場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場所ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第七條 鐵道大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ鐵道局長又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ニ委任スルコトヲ得

第八條 本令中鐵道大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リ

テハ樺太廳長官トシ鐵道局長又ハ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府鐵道局長又ハ道知事、臺灣ニ在リテハ臺灣總督府交通局總長又ハ州知事若ハ廳長トス

附則

本令ハ昭和十五年二月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

第八條關係

六七

1669

陸運統制令(昭和十六年十一月十五日)  
勅令第九百七十號

(四三)

第一條 國家總動員法第八條ノ規定ニ基ク車輛其ノ他陸上ニ於ケル輸送用物資ノ讓渡其ノ他ノ處分、  
及使用ニ屬スル命令、同法第十三條第一項ノ規定ニ基ク陸上運送ノ施設ノ管理、使用又ハ收用、  
同條第二項ノ規定ニ基ク従業者ノ供用、同法第十六條ノ規定ニ基ク陸上運送ノ設備ノ新設、擴張  
又ハ改良ノ制限又ハ禁止、同法第十六條ノ二ノ規定ニ基ク陸上運送ノ設備ノ讓渡其ノ他ノ處分及  
使用ニ關スル命令、同法第十六條ノ三ノ規定ニ基ク陸上運送事業ノ開始、委託、讓渡、廢止若ハ  
休止、陸上運送ノ設備ヲ有スル會社ノ目的變更又ハ陸上運送事業ヲ營ム會社ノ合併ニ關スル命  
令、同法第十七條ノ規定ニ基ク陸上運送事業者間ニ於ケル統制協定ニ關スル命令、同法第十八條  
ノ二ノ規定ニ基ク陸上運送ノ設備ノ讓渡人ノ負擔スル債務ノ承繼及其ノ擔保ノ處理ニ關スル事  
項、同法第十八條ノ三ノ規定ニ基ク陸上運送ノ設備若ハ陸上運送事業ノ讓渡又ハ陸上運送事業ヲ  
營ム會社ノ合併ニ付テノ租税ノ輕減竝ニ同法第十九條ノ規定ニ基ク運送賃其ノ他運輸ニ關スル料  
金ニ付テノ公告ニ關スル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國ノ營ム運送事業ニ關シ一定ノ人若ハ物ノ運送ヲ拒絕シ

第八條關係

六八ノ一

1670

又ハ運送ノ順序若ハ方法其ノ他ノ事項ヲ指定シテ運送ヲ引受クルコトヲ得

第三條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上運送事業者ニ對シ運送ノ拒絶、引受若ハ順序又ハ運

送品(託送手荷物ヲ含ム以下同ジ)ノ受取若ハ引渡ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第四條 鐵道大臣前條ノ場合ニ於テ陸上運送ノ統制上特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所

ニ依リ業務ニ關シ自動車其ノ他陸上ニ於ケル輸送用物資ヲ使用スル者ニ對シ其ノ使用ヲ制限スル

コトヲ得

第五條 鐵道大臣必要アリト認ムルトキハ運送品ノ引渡ヲ請求シ又ハ運送品ノ引取ニ應ジタル荷受

人其ノ他運送品ノ引取ヲ爲スベキ者ニシテ引取ヲ爲スベキ期間内ニ引取ヲ爲サザルモノニ對シ期

日又ハ期間、數量等ヲ指定シ運送品ノ引取ヲ命ズルコトヲ得

第六條 鐵道大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ相當期間繼續シテ運送スル必要アル總動

員物資ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノニ付命令ノ定ムル出貨者ニ對シ當該貨物ノ託送ニ關シ必要

ナル事項ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鐵道大臣前項ノ出貨者ニ對シ同項ノ報告ニ基キ託送ノ期日又ハ期間、數量等ヲ指定シタルトキハ

出貨者ハ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外其ノ指定ニ從ヒ貨物ノ託送ヲ爲シ又ハ爲サシ

(四三〇)



ムベシ

(四三九)

第七條 鐵道大臣必要アリト認ムルトキハ陸上運送ノ施設ヲ管理スルコトヲ得

鐵道大臣ハ其ノ管理ニ係ル施設ノ運営ニ付事業主又ハ之ニ準ズル者ヲ指揮監督ス

工場事業場管理令第三條乃至第五條(第二條ノ規定ヲ準用スル部分ヲ除ク)、第七條、第八條、第九條第一項第二項第四項第五項及第十條乃至第十二條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル施設ノ管理ニ之ヲ準用ス但シ同令中主務大臣トアルハ鐵道大臣トシ同令第四條第三號中第十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ職權ノ一部ヲ行フ官衙ノ長トアルハ陸運統制令第二十八條ノ規定ニ依リ同令第七條ノ管理ニ關スル鐵道大臣ノ職權ノ一部ヲ行フ鐵道局長又ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム)トス

第八條 鐵道大臣必要アリト認ムルトキハ陸上運送ノ施設ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

鐵道大臣ハ前項ノ規定ニ依リ陸上運送ノ施設ヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ其ノ從業者ヲ供用セシムルコトヲ得

工場事業場使用收用令第三條、第四條、第五條第一號乃至第五號第七號、第六條乃至第十二條及第十八條乃至第二十八條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル施設ノ使用又ハ收用及前項ノ規定ニ依ル從

第八條關係

六八ノ三

1672

業者ノ供用ニ之ヲ準用ス但シ同令中主務大臣トアルハ鐵道大臣トシ同令第二十四條第二項、第二十六條及第二十七條中閣令トアルハ命令トス

第九條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上ニ於ケル輸送用物資ヲ所有スル者ニ對シ其ノ者方使用ノ目的ヲ以テ所有スル輸送用物資ノ讓渡若ハ貸渡ヲ命ジ又ハ陸上運送事業者其ノ他陸上運送ノ設備ヲ有スル事業者ニ對シ當該物資ノ讓受若ハ借受ヲ命ズルコトヲ得

鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上運送ノ設備ヲ有スル事業者ニ對シ當該事業ニ屬スル陸上運送ノ設備ノ讓渡若ハ貸渡ヲ命ジ又ハ陸上運送事業者其ノ他陸上運送ノ設備ヲ有スル事業者ニ對シ當該設備ノ讓受若ハ借受ヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ニ拘ラズ讓渡又ハ貸借ヲ爲スコトヲ得

第十條 前條ノ場合ニ於ケル讓渡又ハ貸借ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ鐵道大臣之ヲ裁定ス

前項ノ協議ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十一條 陸上ニ於ケル輸送用物資ヲ所有スル者陸上ニ於ケル輸送用物資ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノニ付讓渡、貸渡其ノ他ノ處分ヲ爲サントキハ命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道大臣ノ認可

(四三六)

ヲ受クベシ

(四九九)

第十二條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上運送事業者其ノ他陸上運送ノ設備ヲ有スル事業者

ニ對シ當該事業ニ屬スル陸上運送ノ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第十三條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅客運送事業ヲ營ム地方鐵道事業者若ハ軌道事業者ニ

對シ貨物運送事業ノ開始ヲ命ジ又ハ專用鐵道ノ設備ヲ有スル者ニ對シ旅客運送事業若ハ貨物運送

事業ノ開始ヲ命ジ若ハ一定ノ者ト其ノ設備ヲ共用スベキコトヲ命ズルコトヲ得

鐵道大臣ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該會社ノ

目的ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上運送事業者ニ對シ陸上運送事業ノ委託、受託、讓

渡若ハ讓受又ハ會社ノ合併ヲ命ズルコトヲ得

第九條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 前條ノ場合ニ於ケル委託、讓渡又ハ合併ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ、

協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ鐵道大臣之ヲ裁定ス

前項ノ協議ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八條關係

六八ノ五

1674

第十六條 鐵道財團、軌道財團、自動車交通事業財團、工場財團又ハ鑛業財團ニ屬スルモノハ第九條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ讓渡アリタル後ト雖モ仍原財團ニ屬スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ原財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ財團ニ屬スルコトヲ得ズ

第十七條 鐵道大臣ハ第九條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ鐵道財團、軌道財團、自動車交通事業財團、

工場財團又ハ鑛業財團ニ屬スル物資又ハ設備ヲ讓渡シタル者ヲシテ第十八條ノ規定ニ依リ債務ノ

承繼アリタル場合ヲ除クノ外讓受人ガ抵當權ノ實行ニ因リ受クルコトアルベキ損失ノ補償ニ充ツ

ル爲命令ノ定ムル所ニ依リ相當ノ擔保ヲ供託セシムルコトヲ得

讓受人ハ前項ノ規定ニ依リ供託セラレタルモノノ上ニ質權ヲ有ス

第十八條 鐵道大臣ハ第九條ノ規定ニ依リ物資又ハ設備ノ讓渡ヲ命ジタル場合ニ於テ當該讓渡人ヲ

シテ當該物資又ハ設備ノ屬スル鐵道財團、軌道財團、自動車交通事業財團、工場財團又ハ鑛業財

團ヲ抵當トスル債務ヲ引續キ負擔センメ置クコトヲ適當ナラズト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ

依リ讓受人ヲシテ當該債務ノ全部又ハ一部ヲ承繼セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル承繼價格其ノ他ノ承繼ニ關スル條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ

協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ鐵道大臣之ヲ裁定ス

前項ノ協議ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十九條 第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ事業ヲ讓受ケタル場合ニ於テ鐵道財團、軌道財團又ハ

自動車交通事業財團ニ屬スルモノノ全部ヲ讓受ケタルトキハ讓受人ハ當該財團ヲ承繼ス

前項ノ場合ニ於テ當該事業ノ讓受人ニ屬シタル當該財團ハ従前ト同一ノ態様ニ於テ當該債務ヲ擔保ス

第十七條及前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ事業ヲ讓受ケタル場合

ニ於テ鐵道財團、軌道財團又ハ自動車交通事業財團ニ屬スルモノノ一部ヲ讓受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 第十六條乃至前條ニ規定スルモノノ外第九條ノ規定ニ依リ物資又ハ設備ノ讓渡ヲ命ジ

タル場合及第十四條ノ規定ニ依リ事業ノ讓渡ヲ命ジタル場合ニ於ケル讓渡人ノ負擔スル債務ノ承繼及其ノ擔保ノ處理ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上運送事業者ニ對シ陸上運送事業ノ全部又ハ一部ノ廢止又ハ休止ヲ命ズルコトヲ得

第八條關係

六八ノ七

1676

第九條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ陸上運送事業者ニ對シ設備ノ共用、連絡運輸、直通

運輸、運送賃其ノ他ノ事項ニ關スル統制協定ノ設定、變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

第二十四條 鐵道大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道營業法第三條第二項(同法第十八條ノ二ニ於テ

準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル公告期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十五條 第九條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ

其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ノ額ガ左ノ額ヨリ少キトキハ  
其ノ額ニ依ル

一 合併ニ因ル會社ノ設立

金錢出資ニ依ル拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ  
財産ノ出資ニ依ル拂込株金額及金錢以外ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ一  
トノ合計額

二 合併ニ因ル會社資本ノ増加

金錢出資ニ依ル増資拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以

(四三)

外ノ財産ノ出資ニ依ル増資拂込株金額及金錢以外ノ財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ  
千分ノ一トノ合計額 (四三)

三 陸上運送ノ設備又ハ陸上運送事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産ニ關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三

第二十六條 國家總動員法第二十七條ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ第二十二條ノ規定ニ依ル事業  
ノ廢止又ハ休止ノ命令ニ因ル通常生ズベキ損失トス

前項ノ規定ニ依ル損失ノ補償請求ノ時期其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定  
ム

鐵道財團、軌道財團又ハ自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ  
依リ第一項ノ規定ニ依ル補償金及當該事業ノ廢止當時當該財團ニ屬シタルモノニ對シテモ其ノ權  
利ヲ行フコトヲ得

第二十七條 鐵道大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ陸上運送事業者、陸上運送ノ設備ヲ  
有スル者、陸上ニ於ケル輸送用物資ヲ使用若ハ所有スル者、運送ノ申込ヲ爲ス者、旅客又ハ貨主  
ヨリ陸上運送ノ統制ニ關シ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ店舗、事業場、事務所、倉庫、

第八條關係

六八ノ九

1678

貨物置場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシ  
ムベシ

第二十八條 鐵道大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ鐵道局長又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視  
總監ヲ含ム）ニ委任スルコトヲ得

第二十九條 第九條乃至第十五條、第十七條（第十九條及第二十條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含  
ム）、第十八條（第十九條及第二十條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）、第二十二條、第二十三條、  
第二十七條及前條中鐵道大臣トアルハ軌道事業ニ關シテハ、鐵道大臣及內務大臣トス

本令中鐵道大臣トアルハ前項ノ規定ニ拘ラズ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、  
樺太ニ在リテハ樺太廳長官トシ鐵道局長又ハ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府鐵道局  
長又ハ道知事、臺灣ニ在リテハ臺灣總督府交通局總長又ハ州知事若ハ廳長トス

第八條第三項ニ於テ準用スル工場事業場使用收用令中官報トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府官  
報、臺灣ニ在リテハ臺灣總督府報、樺太ニ在リテハ樺太廳公報トシ不動産登記法トアルハ朝鮮ニ  
在リテハ朝鮮不動産登記令トス



(四章一四六)

第十三條中地方鐵道事業者トアルハ朝鮮及臺灣ニ在リテハ私設鐵道事業者トシ専用鐵道トアルハ臺灣ニ在リテハ個人ノ専用ニ供スル鐵道トス

第二十四條中鐵道營業法トアルハ朝鮮ニ在リテハ明治四十五年制定第二十四號ニ於テ依ルコトヲ定メタル鐵道營業法トス

第二十五條ノ規定ハ朝鮮ニ在リテハ之ヲ適用セズ

附則

本令ハ昭和十六年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ昭和十六年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス

第八條關係

六八八一

陸運統制令中改正ノ件

(昭和十八年十二月一日  
勅令第九百九十九號拔萃)

第二條 左ニ掲グル勅令中「朝鮮總督府鐵道局長」ヲ「朝鮮總府交通局長」ニ改ム  
陸運統制令

(中、略)  
附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(通三四) 二九九

第八條關係

六八ノ二三